



らんまちょうこく 欄間彫刻

(一宮町教育委員会蔵)

【慶応4年(1868)】

らんま てんじょう かもい しょうじ ふすま たてぐ た こ しょうぶ わく あいだ
欄間とは、天井と鴨居（障子や襖などの建具を立て込むための上部の枠）の間
もう ぶざい さいこう かんき そうしよく もくてき
に設けられる部材で、彩光や換気、装飾などの目的でつけられます。

らんまちょうこく ちょうない きゅうか じいん
この欄間彫刻はもともと町内の旧家ないしは寺院にあったものとみられます。

しょうちくばい トラ む あ
松竹梅があしらわれ、2匹の虎が向き合っています。

うらめん こくめい けいおうさんねんひのとう にがつち ねんき さくしゃ とうと ちょうこう
裏面の刻銘に「慶応三年丁卯二月日」の年紀があり、作者は「東都 彫工

ごとうきんじろうふじわらのひさよし ごとうみのきちちばなのきよひら
後藤金次郎藤原久吉 後藤巳之吉 橘 清平」とあります。

